

第 6 1 回評議員会

日時：1 月 10 日 (土) 13 時半～
場所：自治体福祉センター 4 F



第 277 号 URL 版 2014 年 12 月 31 日

発行 千葉県労働組合連合会

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉センター

電話 043(225)5576 FAX 043 (221) 0138

発行人 本原康雄 定価 20 円

【1 面】

安倍虚構の多数 共産の大躍進

国民要求実現へ新たな闘い

総選挙結果 松本議長談話

第 47 回衆議院選挙は 12 月 14 日投・開票が行われた。結果は、自・公の与党は公示前の 3 2 4 議席から 3 2 6 議席と横ばいだが、これは 25% の得票で 75% の議席を占める小選挙区制の結果である。自民は 4 議席減であり、しかも絶対得票率は 17・4%、6 人に 1 人の支持に過ぎない。民主は 62 議席から 73 議席で微増、「第 3 極」と持ち上げられた各党はいずれも後退。一方、共産は 8 議席から 21 議席と 2・6 倍に躍進した。

今回の総選挙は、内政と外交が行き詰まり、追い込まれた安倍首相が、自らの延命のためだけに強行した大義なき選挙である。私たちは、「“戦争する国づくり” と “労働者をモノ扱いする国づくり” の安倍暴走政治にノーの審判を下そう！」を合言葉に、最低賃金大幅引き上げ、働くルール確立でくらしと経済を再生させる政策を掲げる、協力・共同の関係にある政党の前進をめざし、思想信条の自由を保障しながら奮闘した。

選挙後の情勢は、労働者と資本家の激突を背景に、政策的にも運動でも「自共対決」の構図が鮮明になった。また、安倍政権がこれから進めようとしていることは、消費税 10%、集团的自衛権、原発再稼働、沖縄新基地、とりわけ「アベノミクス」による究極の大企業優遇、働くルール破壊である。どれも国民多数の意思に背くものばかりである。それを強行しようとするならば、労働者・国民との矛盾は急速に拡大するだろう。

千葉労連は総選挙の結果を踏まえ、くらしと雇用・社会保障、経済再生、原発ゼロ、平和外交などの諸要求を前進させ、平和と民主主義が花開く未来社会をつくるため全力をあげる。

暴走政治打倒！ 憲法と暮らし守ろう

15 国民春闘千葉県学習討論集会

千葉労連などで作る 15 国民春闘千葉県共闘委員会は、12 月 6 日に千葉県学習討論集会を開催しました。集会には衆議院解散総選挙の真っただなかであるにもかかわらず、県内各地から 60 名が参加しました。



総選挙勝利・春闘大幅賃上げに向け議論する参加者

総選挙で政治を変え春闘で要求実現

野老副議長の開会あいさつでは、大正 7 年寺内内閣時の米価高騰に端を発した「米騒動」と、政府対応を批判したジャーナリズムが弾圧され軍国主義に加速がついた歴史が示され、まさに昨今の情勢と瓜二つであり、私たちの運動で社会を変えていく必要があることが強調されました。

主催者あいさつで、千葉労連松本議長は、総選挙で政治を変えること、春闘で要求を実現することの二つの課題を提起し、とくに総選挙ではアベノミクスの信を問い、集団的自衛権の名による戦争政策をストップさせるため、労働者として大運動を作り上げなければならないことを強調しました。そして、

一点共同の輪を広げ「平和とくらしと民主主義を守ろう」と呼びかけました。

守ろう憲法と暮らし ストップ暴走政治

その後、全労連の井上久事務局長が「総選挙と 2015 年国民春闘の課題、展望」と題して講演し、今回の総選挙はわれわれの運動と共同が安倍政権を追い込んだものであること、今まさに暴走政治に歴史的なノーの審判を下し、政治の流れを変える大きなチャンスであると強調しました。さらに春闘の課題として、雇用の安定と社会保障拡充をセットにした全労連大運動への結集が重要であることが語られました。

本原事務局長からは「千葉県 15 年国民春闘方針」の第一次案をもとに、衆議院解散総選挙と春のいっせい地方選挙で労働者・国民のための政治に転換し、春闘要求を実現させていこうと提案がされました。

全体討論では 10 人が発言し、要求実現・組織拡大の成果と教訓を交流しあうとともに、総選挙で安倍政権の暴走を止める決意を固めあうものとなりました。

労働法制の改悪許すな！

第 24 回千葉県権利討論集会

生涯派遣・残業代ゼロ・首切り自由を許すな

11 月 24 日の振り替え休日、50 名の参加で、第 24 回千葉県権利討論集会が開かれました。テーマは「アベノミクスの雇用破壊をぶっ飛ばせ！」。中丸弁護士の基調報告では派遣法改悪やホワイトカラーエグゼンプション、解雇金銭解決制度など政府・財界の狙いは労働者の権利を根底から破壊する危険な中身であることを強調。「ぶっ飛ばすどころか、ぶっ飛ばされかねない危機意識を持っている」という認識を示しました。

ドイツから学ぶこと 派遣労働の規制へ舵

記念講演は、千葉大学法政経学部教授皆川宏之氏による「ドイツの非正規労働と低賃金労働」。ケルン大学に 2 年間留学した皆川教授、ドイツでは非正規労働者や低賃金労働が拡大するも、「社会保障制度との連携による所得保障を長期的に持続可能なものとする点を重視し論議が行われた」「日本ではその論議が十分ではない」と指摘。派遣労働者の拡大＝新自由主義の台頭という面ではドイツと日本の共



ドイツの事例を話す皆川教授

通性がみられる一方、ドイツでは派遣労働の規制について舵を切ったことが紹介されました。

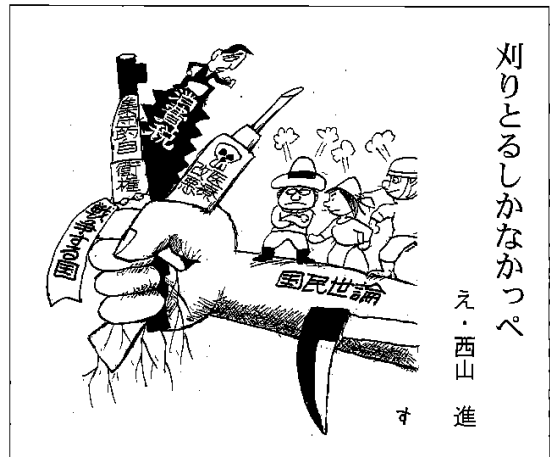
ドイツ国民の社会的な公平性を求める民主主義に対する意識の高さは圧巻です。ドイツをお手本として社会保障制度をつくった日本ですが、社会保障の質の高さもお手本としてほしいものです。

その後は実行委員有志による寸劇「イリーガル・ハイ」は、労働者を使い捨てにするブラック企業を痛烈に批判する内容でした。

全体討論では、皆川講演について質問・意見が百出。安倍政権の雇用破壊を「ぶっとばす」決意あふれる討論集会となりました。

波濤

衆議院総選挙の結果、自民、公明両党で定数の 3 分の 2 を上回り、安倍首相は国民の力強い支持を得ることができたと自画自賛。しかし、投票率は 52・66% と戦後最低。半数近くの有権者が意志を示さなかった中で「力強い支持」を得たといえるのかは疑問だ▼経済政策、原発再稼働問題、安全保障問題など、今後の政策で、良くも悪くも私たちの暮らしが大きく左右されていく。支持を得たから何をしてしても許されるというわけではない▼一方、沖縄では県知事選に続き、「オール沖縄」の民意を代表する 4 氏が全勝。新基地ノーにまた一步近づいた▼暮らし、未来を守るためにも、私たちが声を出し続けよう！



刈り取るしかなかつて

え・西山 進

【2面】

戦争する国づくり許すな

全教千葉が教育研究集会開催

11 月 15 日、市川市立富美浜小学校を会場に開催した、全教千葉・全教市川合同教育研究集会は成功裏に終わることができました。全教千葉の教研集会は、父母、市民に開かれた集会にとの思いから「教育と子どもを語るつどい」という名称にしてきました。

今年度は文字通り、教職員はもとより、子ども、父母、市民、労働者の方がのべ 600 人近く参加し、「地域に開かれた」教研集会となりました。安倍内閣が「戦争する国づくり」のために、子どもたちをすすんで戦争に行くように仕向け、戦後民主教育をゆがめようとしている情勢の下での開催でした。千葉では、県立高校に対して「道徳授業」義務化や、県内高校で最も



全体講演の様子

多く使われていた実教出版社会科教科書の採用に右翼系の県会議員と教育委員会が圧力をかけるということがおこなわれています。このようなあからさまな教育への政治介入の動きに対しての危機感が、集会への参加を後押ししたものと考えています。多くの市民、労働団体の方々が集まり、私たちの民主的な教育運動にエールをいただいたことに、改めてお礼を申し上げたいと思います。

今回の集会の目玉として、記念講演には田島隆さんを講師にお招きしました。田島氏は、自身の在学中の体験を中心に語ってくれました。田島氏は小学校時代にいじめにあい、担任の教師から「いじめられるあなたが悪い」と言われたことで学校不信に陥ったそうです。一方、実父が破産し離婚したことを機に高校を退学。その後、数々の職を転々としながら資格試験を目指し、司法書士補助者を経て、海事代理士と行政書士の試験に合格しました。現在の成功のきっかけとなったのは、中学校の恩師の「おまえはやればできる」との一言だったと振り返りました。講演は、多くの参加者に教育とはどうあるべきか、その可能性と危険性を強烈に印象づけるものとなりました。

(全教千葉中央執行委員長 寺田勝弘さん投稿)

安倍内閣はやめろ！

八千代怒りの市民集会

11 月 16 日、八千代労連主体の実行委員会主催で『安倍暴走政治にレッドカードだ！八千代怒りの市民集会』を八千代市内で開催し、90 人が参加しました。

来賓あいさつで、千葉労連・本原事務局長が「消費税増税、TPP、沖縄基地問題など、国民の願いに背く安倍政権を追い詰めましょう」と訴えました。続いて八千代市・市民が主役の市政を実現する会の曾我会長が「国政もひどい、市政もひどい」と訴え、「安倍内閣はやめろ！」のシュプレヒコールをしました。その後、日本共産党八千代市議団・堀口市議が「市政は財政難を理由に福祉を削り、市民を裏切っている。国政を変え、市政も転換しましょう」と訴えました。

労組や市民団体によるリレートークでは、年金者組合が「国保料値上げは市長の政策協定違反だ。許さない！」、市職労が「財政危機は八千代市の執行部が作り出したもの。財政危機を作り出した執行部が職員賃金削れとは何事だ。まずは責任をとれ！」と訴えました。

集会終了後「安倍政権は退陣せよ！」「集団的自衛権行使容認を撤回せよ！」などのシュプレヒコールを轟かせながら八千代市内をデモ行進しました。

当日は沖縄知事選勝利の歴史も刻まれました。

混ぜるととても危険

秘密法と集団的自衛権

「秘密保護法を廃止させ「秘密保護法を廃止させる千葉の会」は 11 月 14 日、「秘密保護法と集団的自衛権でどうなるニッポン!？」と題する講演会を開催し、60 名余が参加しました。

千葉の会は、安倍政権が特定秘密保護法を昨年末に強行成立させ、批判世論が全国で沸騰した折に結成され、法成立後も「廃止」を求めて集会、宣伝、議会請願や意見広告運動を粘り強くとりくんできました。

この度の講演会は、特定秘密保護法の施行と、集団的自衛権行使を許さない目的で開催されたものです。

「明日の自由を守る若手弁護士会（略称あすわか）」の早田由布子事務局長の講演では「自民党改憲草案に危惧をいだいた 28 人が昨年あすわかを立ち上げ、今は 350 人の会員。改憲派の人も参加しているが、民主主義と立憲主義を守ること一致し、秘密法に反対している」と紹介。憲法の成り立ちをおとぎ話風紙芝居で説明しました。

とりわけ「秘密法は国家安全保障会議設置や集団的自衛権行使容認と一体となって日本を海外で戦争する国にするもので、混ぜると危険。しかも国のあり方を内閣の一存で決めてしまう」危険性を強調しました。

講演の最後に「政権にとってめんどくさい存在であり続けよう」と結びました。

講演後、質問があい次ぎ、県内で運動を担っている団体代表や個人が発言。最後に千葉の会岸田事務

局長が行動提起を行いました。